

EurekaXIV

六年制通信 No.20 令和8年10月2日(金)号

時間の問題

何か月も前のことですが、退勤時に駐車場で野球部のノックを見ていたら、監督が「先生やってみますか」と声をかけてくれました。たぶん、そういう声掛けを待っているような顔をしていたんでしょうな、恥ずかしいことに。嬉しそうにグラウンドに入ってバットを握ったのはいいけれど、見事な空振り。「うそお!」、自慢じゃないがノックはうまかった、はずなのに。それから10球くらい連続で空振り。もう体も腕の振りもバラバラなのが自分でわかるようになり、生徒に申し訳ないと思った頃に一球だけバットに当たり、それで終了。あの時は野球部の生徒諸君に迷惑をかけました。

空振りを重ねながら考えていたのですが、自転車の乗り方のように、確か体で覚えたことは時間が経っても覚えているのではなかったか。ではなぜノックができなくなっているのか。自転車は持っていますが、今でももちろん乗れます。自転車とノック、どう違うのですかね。大人になって始めたことは続けていないと身につかないのでしょうか。そう言えば、ピアノやバイオリンのような楽器は小さい頃から始めないと決してモノにならないと言われていました。松本清張の『砂の器』に登場する主人公は、突如として彗星のごとく現れた天才ピアニストという設定ですが、そんなことは現実にはありえない、「天才ピアニスト」なら子どもの頃から誰もが知っているはずだ、松本清張もそのあたり適当だったという評を読んだことがあります。囲碁や将棋もそうです。藤井さんは5歳からです。

大人になって始めたことは、時間が経てば忘れてしまう。頭の記憶も筋肉の記憶も忘れてしまう、ものらしい。私も高校の時は理系で数学を最後まで勉強していましたが、およそ半世紀全く触れずにいたらきれいさっぱり頭から消えてなくなりました。私の場合は数学など特に好きで勉強していたわけではないから、なおさら忘れやすいのでしょうか。好きだった人は忘れないのかな。興味関心の強さも記憶の忘却と関係しているように思うのですがどうでしょう。

筋トレなど、普通大人になってから始めるものもあるので、何でもかんでも子どもの時に触れていないとできないものでもないようです。ただ、何かをモノにしようと思うと、子どもでも大人でも一意専心、ある一定の時間あるいは回数が要だというのは多くの人が言っていることです。よく言われているのは、十年間ですね。十年の月日をかけて真剣に一つのことに取り組めば一流になれる。これ、昔ロケット博士の糸川英夫が「同じことを十年以上はしたくない」と言っていましたが、これも言葉を変えています、十年真剣に取り組めばモノになると言っているのと同じです。

一万時間が必要だという人もいます。これは一日三時間取り組んだとして年に約千時間ですから、つまり一日三時間で十年という計算です。人間の集中力は一日六時間が限度というのを讀んだことがあります、それだと五年ですね。回数で言えば一万回というのもよく耳にします。筋トレの、例えば腕立て伏せを一万回すれば明らかに体に変化が見られる、らしい。一日三百回で一か月と三日くらいですか。私はこれを実際にやった人を知っていますが、確かに胸も分厚く腕も太くなっていましたね。ただし、これもやめたらすぐに落ちてしまいます。

大人になってから出会うものとして、例えば第二外国語・第三外国語があります。これらは小中校ではまず出会いませんから、大学生になって初めてドイツ語なりフランス語なりを勉強することになります。特に興味も必要性もなければ適当に単位を取るくらいの勉強でいいのですが、単位を取った瞬間から忘れていきます。モノにしようと思ったら、基礎トレに本気で打ち込む必要があります。つまり二か月ほどの「一意専心」が必要で、以後毎日の勉強が欠かせません。君たちも、考えてみれば、大人になってからの方が興味関心の芽生える対象に出会う機会が増えるでしょうから、それらをモノにするために「時間の問題」を意識しておくことをおすすめします。

今週のおすすめ

・W リンク他 円谷夏樹訳 『刑事コロンボ 殺しの序曲』 (二見文庫)

「刑事コロンボ」はもう 50 年以上も前になりますか、当時としては珍しかった倒叙ミステリーのテレビドラマで、視聴率も高かったと思いますよ。私も恐らく全作観ています。主人公の吹き替えが小池朝雄というなかなか味のある声の持ち主で、ドラマの中で多用される「うちのカミさんが…」など、結構流行りましたよ。

倒叙ミステリーというのは、最初に犯人も犯行の手口も読ませる、あるいは観せてしまうもので、犯人を追及する側がどうやってアリバイを崩し、どうやって犯行を立証していくのかを楽しむというものです。ちなみにコロンボは、これを日本でやったら完全に違法捜査に当たるということを数多くしております。倒叙ミステリーで流行ったのは「古畑任三郎」ですかね。君たちも知っているのではないかな。

数あるコロンボの作品の中でも、私はこの「殺しの序曲」が大好きでして、ドラマの中に出てくるコインを使ったクイズは今でも覚えています。諸君、読んで挑戦してみてください。また、最後の最後に犯人（この人天才なのです）がコロンボの知能指数を試す問題を出すのですね。「単語を四つ出します。一つだけ共通点のないものを挙げて下さい。借用、外泊、敗北、欠勤」と。答えは「敗北」です。おわかりかな。ただ、これは吹き替え用の、つまり日本語で聴いている視聴者向けの問題に変えてあります。実際は全く違う問題なのです。今回この本の解説に載っていましたので本物を紹介しておきます。一つだけ共通点のないものは、というのは同じです。Leave (別れ), Uncle (叔父), Delight (喜び), Asphalt (アスファルト)。さて、いかがでしょうか。

これらの答えとコインの問題は次週お教えいたしましょう。

BGM は 森高千里 の 渡良瀬橋 でした…。